

研 究

病院，介護施設を対象とした 簡易懸濁法アンケートについての検討

浜松赤十字病院 薬剤部

武田恵美，二橋史恵，小林美絵，二橋智郎，青山 平，山田喜広

同 地域医療連携室

平野真佐江

要 旨

浜松赤十字病院では，平成19年に簡易懸濁法の運用を開始した。経管投与の入院患者と，同患者で簡易懸濁法を実施している病院や施設等に転院する際の処方を対象としており，在宅退院へは同法をひろげていない。今回我々はアンケートを実施し，他の病院，施設における簡易懸濁法の現状を把握することにした。平成22年4月，浜松市内の病院の薬剤師と看護師，介護施設の職員を対象とし，認知度，導入の有無，運用状況等について調査した。各職種の回収率，運用率は50%前後であった。運用のメリットは，調剤・溶解手技の省力化，中止・破損薬の減少が共通していた。デメリットは各職種により異なった内容であった。また全職種で，粉碎・破砕等薬剤の調剤法の選択にばらつきがみられた。一方，運用したいが未定の病院，介護施設もあり，簡易懸濁法の情報を共有し，普及と統一を図ることが重要と思われた。この結果を職種ごとにまとめ，回答者へ情報提供した。

Key words

簡易懸濁法，アンケート

I. 緒 言

高齢者の増加やNST活動の普及により，経管投与患者が増加している。簡易懸濁法は内服薬を経管投与する効果的な方法で，病院や施設に普及してきている。

浜松赤十字病院（以下，当院）では，平成19年に運用を開始した。当院では，入院中の全ての経管投与患者に実施しているが，退院時処方退院・転院先に合わせた方法で，在宅退院へは粉碎法に切り替えて対応している。

今回我々は，浜松地域の病院と介護施設における簡易懸濁法の現状を把握するためのアンケートを実施し，病院と介護施設が連携することで，同法の普及と情報の共有化を図りたいと考えた。

II. 対象・方法

1. 調査概要

静岡県病院薬剤師会正会員が在籍する浜松市内の診療所を含む38病院の薬剤師と看護師，および浜松市が管轄する57の介護施設（介護老人福祉施設・保険施設，介護療養型医療施設）の職員を調査対象とした。平成22年4月に紙面のアンケートを郵送し，ファクシミリと郵送のいずれかで回収した。

2. アンケート調査項目

アンケート用紙は職種ごとに作成した（表1，2）。ただし，病院薬剤師と病院看護師の質問は同じ項目で，回答を各職種に合わせた内容とした。

アンケート結果について回答者に情報提供するため，病院，介護施設名公表の可否を確認した。

表1 簡易懸濁法アンケート 対象：病院薬剤師

<p>簡易懸濁法アンケート 薬剤師の方へ 薬1</p> <p>今後、地域内での情報交換に活用させていただく場合、病院名を公表してもよろしいでしょうか？ <input type="checkbox"/>よい () <input type="checkbox"/>困る ()</p> <p>ご回答いただける方のお名前 () 所属 ()</p> <p>①簡易懸濁法を知っていますか？ <input type="checkbox"/>知っている →③の設問へ <input type="checkbox"/>知らない →②④の設問へ</p> <p>②簡易懸濁法について興味はありますか？ <input type="checkbox"/>興味ない <input type="checkbox"/>興味ある・・・内服薬を経管投与する方法の一つです。インターネットで簡易懸濁法について検索することができます。書籍は、「内服薬 経管投与ハンドブック」(じほう)、「経管投与の新しい手技 簡易懸濁法Q&A」(じほう) があります。</p> <p>③既に、簡易懸濁法を運用されていますか？ <input type="checkbox"/>運用している (平成 年 月頃開始) →④の設問へ <input type="checkbox"/>運用していない →2 枚目⑩の設問へ</p> <p style="text-align: center;"><簡易懸濁法を運用している・・・>病院の方</p> <p>④スムーズに開始することができましたか？ <input type="checkbox"/>A. 問題なし <input type="checkbox"/>B. 少し苦労した <input type="checkbox"/>C. 大変苦労した</p> <p>Aの方へ 特に気を使われたことは何でしょうか？ <input type="checkbox"/>採用薬品の調査・変更 <input type="checkbox"/>医師への説明 <input type="checkbox"/>看護局への説明 <input type="checkbox"/>看護局への勉強会 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>B・Cの方へ 大変だったことは何でしょうか？ <input type="checkbox"/>採用薬品の調査・変更 <input type="checkbox"/>医師への説明 <input type="checkbox"/>看護局への説明 <input type="checkbox"/>看護局への勉強会 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑤対象患者全てに簡易懸濁法を導入していますか？ <input type="checkbox"/>100% <input type="checkbox"/>99%~75% <input type="checkbox"/>74%~50% <input type="checkbox"/>49%~25% <input type="checkbox"/>24%~0% ()</p> <p>⑥運用している病棟は？ <input type="checkbox"/>D. 現在実施している病棟だけでよい <input type="checkbox"/>E. 全病棟 <input type="checkbox"/>F. まだ一部だが、最終的には全病棟としたい</p> <p>Dの方へ 何科で実施していますか？</p> <p>E・Fの方へ 何科から開始されましたか？</p> <p>D・E・Fの方へ 上記の科を選択された理由は何でしょうか？</p> <p>⑦患者さんが退院・転院される時の指導はどのようにされていますか？ 退院時 <input type="checkbox"/>家族に、薬剤師が指導する (実践指導 <input type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし) 2010.4 浜松赤十字病院</p>	<p style="text-align: right;">薬2</p> <p><input type="checkbox"/>家族に、看護師が指導する (実践指導 <input type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし) <input type="checkbox"/>説明書を添付する <input type="checkbox"/>特に何もしない</p> <p>転院時 <input type="checkbox"/>転院先・訪問看護ステーション等に情報を流す <input type="checkbox"/>説明書を添付する <input type="checkbox"/>特に何もしない</p> <p>⑧メリットは何でしょうか？ <input type="checkbox"/>調剤の省力化 <input type="checkbox"/>処方変更時の廃棄薬剤の減少 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑨デメリットは何でしょうか？ <input type="checkbox"/>調剤に時間がかかるようになった (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>使用できる薬剤の選択制限 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>薬剤の溶解性についての情報不足 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>配合変化についての情報不足 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>GE 薬の情報不足 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑩投与方法の分類はどのようにされていますか？ (複数選択になると思われます。) <input type="checkbox"/>錠剤のまま <input type="checkbox"/>破砕 <input type="checkbox"/>粉碎 <input type="checkbox"/>脱カプセル <input type="checkbox"/>散剤製品の使用 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>ご意見がありましたら、お願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">ご協力ありがとうございました。2010.4 浜松赤十字病院</p> <p style="text-align: center;"><簡易懸濁法を運用していない・・・>病院の方</p> <p>⑩運用したいと思いますか？ <input type="checkbox"/>G. 準備中 <input type="checkbox"/>H. 運用したいが未定 <input type="checkbox"/>I. 運用する予定はない</p> <p>Gの方へ どのような状況ですか？ <input type="checkbox"/>順調 <input type="checkbox"/>問題もあるが進行している <input type="checkbox"/>頓挫している ()</p> <p>Hの方へ 何が問題でしょうか？ <input type="checkbox"/>運用までの準備が大変そう <input type="checkbox"/>部内の協力が得られない <input type="checkbox"/>医師の理解が得られない <input type="checkbox"/>看護局の協力が得られない <input type="checkbox"/>現在行なっている業務で手一杯 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>Iの方へ 何が問題でしょうか？ <input type="checkbox"/>運用までの準備が大変そう <input type="checkbox"/>部内の協力が得られなさそう <input type="checkbox"/>医師の理解が得られなさそう <input type="checkbox"/>看護局の協力が得られなさそう <input type="checkbox"/>現在行なっている業務で手一杯 <input type="checkbox"/>新しいことを始めるのは大変 <input type="checkbox"/>必要ない <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>ご意見がありましたら、お願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">ご協力ありがとうございました。2010.4 浜松赤十字病院</p>
--	--

表2 簡易懸濁法アンケート 対象：介護施設職員

<p>簡易懸濁法についてのアンケート 施設1</p> <p>今後、地域内での情報交換に活用させていただく場合、施設名を公表してもよろしいでしょうか？ <input type="checkbox"/>よい (施設名:) <input type="checkbox"/>困る ()</p> <p>アンケートにご回答くださる方のお名前 () 所属 ()</p> <p>①簡易懸濁法を知っていますか？ <input type="checkbox"/>知っている →③の設問へ <input type="checkbox"/>知らない →②④の設問へ</p> <p>②簡易懸濁法について興味はありますか？ <input type="checkbox"/>興味ない <input type="checkbox"/>興味ある・・・内服薬を経管投与する方法の一つです。インターネットで簡易懸濁法について検索することができます。書籍は、「内服薬 経管投与ハンドブック」(じほう)、「経管投与の新しい手技 簡易懸濁法Q&A」(じほう) があります。</p> <p>③既に、簡易懸濁法を運用されていますか？ <input type="checkbox"/>運用している →④の設問へ <input type="checkbox"/>運用していない →2 枚目⑩の設問へ</p> <p style="text-align: center;"><簡易懸濁法を運用している・・・>施設の方</p> <p>④運用を開始したきっかけは？ <input type="checkbox"/>職員からの提案(<input type="checkbox"/>薬剤師 <input type="checkbox"/>看護師 <input type="checkbox"/>その他:) <input type="checkbox"/>前に入院していた病院(施設)で行っていた患者さんが入院(入所)した →⑤の設問へ <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑤引き継いだ患者さんのみ限定していますか？ <input type="checkbox"/>限定している <input type="checkbox"/>拡大した 拡大したきっかけは何でしょうか？</p> <p>⑥対象患者全てに簡易懸濁法を導入していますか？ <input type="checkbox"/>100% <input type="checkbox"/>99%~75% <input type="checkbox"/>74%~50% <input type="checkbox"/>49%~25% <input type="checkbox"/>24%~0% ()</p> <p>⑦スムーズに開始することができましたか？ <input type="checkbox"/>A. 問題なし <input type="checkbox"/>B. 少し苦労した <input type="checkbox"/>C. 大変苦労した</p> <p>Aの方へ 何がよかったのでしょうか？ <input type="checkbox"/>従来の手技とほとんど変わらなかった <input type="checkbox"/>導入前の準備を万全に行い、実施にさしかえないうにしました <input type="checkbox"/>従来の手技より簡易懸濁法が簡単だった <input type="checkbox"/>スタッフが積極的に取り組んだ <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>B・Cの方へ 何が大変だったのでしょうか？ <input type="checkbox"/>簡易懸濁法の手技を理解するのが大変だった <input type="checkbox"/>開始前の準備不足 <input type="checkbox"/>簡易懸濁法の手技が大変だった <input type="checkbox"/>スタッフが消極的だった <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑧運用している病棟(階)は？ <input type="checkbox"/>全病棟(階) <input type="checkbox"/>現在実施している病棟(階)だけでよい <input type="checkbox"/>まだ一部だが、最終的には全病棟(階)でもよい</p> <p style="text-align: right;">2010.4 浜松赤十字病院</p>	<p style="text-align: right;">施設2</p> <p>⑧メリットは何でしょうか？ <input type="checkbox"/>調剤・溶解手技の省力化 <input type="checkbox"/>破損薬剤(落下等)の減少 <input type="checkbox"/>処方変更時の廃棄薬剤の減少 (直前まで変更できる) <input type="checkbox"/>チューブ類の閉塞が減少 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑨デメリットは何でしょうか？ <input type="checkbox"/>溶解手技が難しい (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>業務手順変更の浸透に時間がかかった (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>破損薬剤(落下等)の増加 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>薬剤以外のコストが増加 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>チューブ類の閉塞が増加 (<input type="checkbox"/>解決した <input type="checkbox"/>未解決) <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>⑩投与方法の分類はどのようにされていますか？ (複数選択になると思われます。) <input type="checkbox"/>錠剤のまま <input type="checkbox"/>破砕 <input type="checkbox"/>粉碎 <input type="checkbox"/>脱カプセル <input type="checkbox"/>散剤製品の使用 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>ご意見がありましたら、お願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">ご協力ありがとうございました。2010.4 浜松赤十字病院</p> <p style="text-align: center;"><簡易懸濁法を運用していない・・・>施設の方</p> <p>⑩運用したいと思いますか？ <input type="checkbox"/>D. 準備中 <input type="checkbox"/>E. 運用したいが未定 <input type="checkbox"/>F. 運用する予定はない</p> <p>Dの方へ どのような状況ですか？ <input type="checkbox"/>順調、問題もあるが進行している <input type="checkbox"/>頓挫している ()</p> <p>Eの方へ 何が問題でしょうか？ <input type="checkbox"/>運用までの準備が大変そう <input type="checkbox"/>現在行なっている業務で手一杯 <input type="checkbox"/>薬剤師の協力が得られない(調剤薬局も含む) <input type="checkbox"/>スタッフが消極的 <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>Fの方へ 何が問題でしょうか？ <input type="checkbox"/>運用までの準備が大変そう <input type="checkbox"/>現在行なっている業務で手一杯 <input type="checkbox"/>薬剤師の協力が得られない(調剤薬局も含む) <input type="checkbox"/>スタッフが消極的 <input type="checkbox"/>新しいことを始めるのは大変 <input type="checkbox"/>必要ない <input type="checkbox"/>その他 ()</p> <p>ご意見がありましたら、お願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">ご協力ありがとうございました。2010.4 浜松赤十字病院</p>
--	--

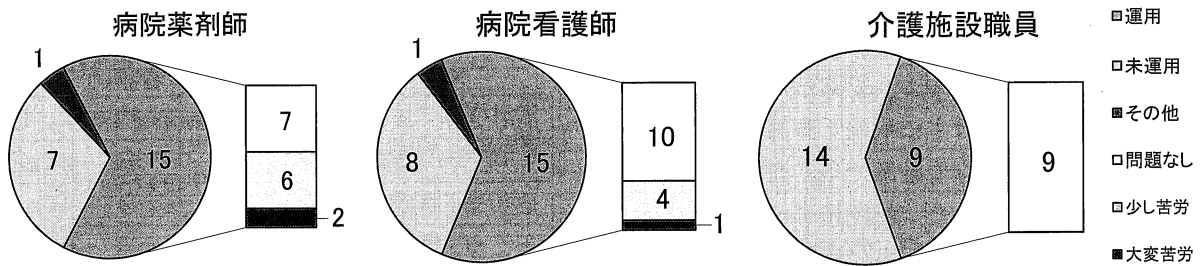


図 運用状況と開始時の状況

その他の内容 病院薬剤師：対象患者が入院時に運用。病院看護師：無回答。病院は半数以上で運用されており、介護施設の運用は半数以下であった。病院薬剤師は運用開始に苦勞しているが、介護施設職員は全員問題なしと回答し、順調に開始したと思われる。

Ⅲ. 結 果

1. 回収率

回収率は、病院薬剤師は38施設中23人（60.5%）、病院看護師は38施設中24人（63.2%）、介護施設職員は57施設中23人（40.4%）であった。介護施設の回答者のほとんどは看護師であった。

2. 調査結果

認知度は、病院薬剤師95.7%、病院看護師66.7%、介護施設職員60.4%と全般的に浸透していたが、運用率は病院薬剤師65.2%、病院看護師62.5%、介護施設39.1%で、いずれも認知度の割に低かった（図）。また介護施設のほうが問題なく開始できていた（図）。開始時に注意した点と

表3 開始時に注意した点（複数回答可）

	病院薬剤師	病棟看護師	介護施設職員
看護師への説明	10		
採用薬品の調査・変更	6		
医局への説明	2		
看護局への勉強会	1		
溶解手技		6	2
粉碎法からの手技の変更		3	4
簡易懸濁法の理解		3	
スタッフ(積極的か消極的か)		2	3
薬剤師の説明		1	
その他	1	4	1

病院薬剤師は他部署への運用説明に、病院看護師、介護施設職員は運用手技の理解に配慮していた。

して、病院薬剤師は他部署の理解を得ること、病院看護師、介護施設職員は運用法を選択していた（表3）。

対象患者への簡易懸濁法の導入率は、全患者導入が病院薬剤師40%、病院看護師46.7%、介護施設職員66.7%で、25%未満の導入は病院薬剤師40%、病院看護師20%、介護施設職員11.1%であった。導入率は、病院薬剤師と病院看護師で開きがあった。介護施設での導入のきっかけは、薬剤師、看護師からの提案の他に、持参薬に添付された説明書での開始もあった。病院からの引き継ぎ患者だけでなく、対象患者全員に拡大した介護施設もあった。

薬剤の調剤法は、錠剤もしくは破砕で行なう簡易懸濁法に加えて、簡易懸濁不適薬剤での粉碎法の実施や散剤製品の使用などを組み合わせて調剤していた（表4）。病院看護師で粉碎や散剤使用の回答数が少なく、調剤法に対する関心は低いと思われた。対象薬剤の選別、破砕する手間等から

表4 薬剤の調剤法（重複回答可）

	回答数	錠剤	粉碎	散剤	脱カプ	破砕
病院薬剤師	16	16	11	8	7	6
病院看護師	15	14	6	4	4	6
介護施設職員	9	8	4	2	2	4

脱カプ：脱カプセル。

病院薬剤師は、対象患者が入院中は運用すると回答した1名も含む。

病院看護師、介護施設職員で無回答が1人ずつあり。

部分的導入で運用している病院、介護施設の回答も含む。

破碎は少ないと思われていたが、実施している病院看護師の回答数は多く、病院薬剤師は実施の有無を把握しきれていないようであった。

病院での退院指導は主に病院看護師が実施しており、実技指導実施も看護師で多く回答され、未実施の病院は少なかった。転院指導は半分以上が未実施で、情報提供と説明書の添付にとどまり、転院先への情報共有が不十分と思われた。

運用上のメリットとして、各職種とも、調剤・溶解手技の省力化を選択していた。デメリットとして、病院薬剤師は薬品に関する項目、病院看護師は運用法に関する項目を選択していた。介護施設職員でデメリットを回答する施設は少なかった(表5)。

簡易懸濁法を運用していない病院と施設に、これからの予定と運用しない理由を調査した(表6)。運用したいが未定は、病院薬剤師28.5%、病院看護師44.4%、介護施設職員46.2%であった。病院薬剤師で現在準備中が14.4%で、問題はあるが進行中との回答であった。対象者がいない理由での運用予定のない病院と介護施設は少なく、対象者はいるが、新業務立ち上げに対する負担等の問題から運用に至らないことがわかった。介護施設では、保険薬局を含む薬剤部が非協力的なことや、簡易懸濁法についての情報の不足などの回答もあった。

表5 運用上のメリット・デメリット(複数回答可)

メリット	病院 薬剤師	病棟 看護師	介護施設 職員
	調剤・溶解手技の省力化	15	11
処方変更時の廃棄薬剤の減少	6	3	2
破損(落下等)薬剤の減少		9	
チューブ類の閉塞減少		2	1
その他	1		
無回答		1	

デメリット			
薬剤の情報不足	12		
配合変化の情報不足	9		
使用可能薬剤の選択制限	5		
GE薬の情報不足	4		
業務手順変更の徹底		4	1
手技の浸透		3	1
チューブ類の閉塞増加		1	1
簡易懸濁法を知らなかった		2	
溶解時間		1	
特になし			3
その他	2		1
無回答		6	2

メリットは全職種とも共通の回答が多く選択された。

デメリットは病院薬剤師が薬剤、病院看護師は運用手技における問題点、介護施設職員はとくにないという回答が多かった。

表6 運用していない病院・介護施設の今後の予定と運用しない理由(重複回答可)

	病院薬剤師		病院看護師		介護施設職員		
	未定	予定なし	未定	予定なし	未定	予定なし	
	2 28.5%	4 57.1%	4 44.4%	5 55.6%	6 46.2%	7 53.8%	
運用しない理由	運用までの準備が大変	2	1	2	1	1	
	新業務を立ち上げる余裕がない	2	1		1	3	
	新業務立ち上げへの不安		1			1	
	スタッフが消極的			1			
	必要なし(対象患者がいない)		1		1	3	
	薬剤部(保険薬局含む)が非協力的					1	2
	その他	1	2	2	3	7	1

未定：運用したいが未定。

病院薬剤師で運用にむけ準備中と回答した1名(14.4%)は除外。

運用希望だができていないという回答も半数近くあり、新しい業務が増えることへの負担が問題と思われる。対象者がいないという回答は少なかった。

表7 結果一覧表 対象：病院薬剤師

浜松市内の病院における簡易懸濁法実施状況 アンケート対象者：病院薬剤師

実施病院 15施設

区分	薬剤の調剤法					導入率 (%)	実施病棟	退院指導				転院指導					
	錠剤	粉砕	散剤	脱カプ	破砕			薬剤師	看護師	説明書	なし	情報提供	説明書	なし			
一	JA静岡厚生連遠州病院	○	○	○		24~0	一部		○								
般	聖隷浜松病院	○	○	○		100	全部	○実技	○実技							○	
病	県西部浜松医療センター	○	○	○	○	100	大部分 ¹⁾		○実技							○	
院	浜松医科大学医学部付属病院	○	○	○	○	24~0	一部	○									
	浜松労災病院	○	○	○		24~0	一部(脳外)				○(実績なし)					○	
	浜松赤十字病院	○	○	○	○	74~50	全部	在宅(退院)患者は粉砕に切替							○		
療	弘遠会すずかけ病院	○	○			99~75	全部	○								○	
養	一穂会西山病院	○	○		○	99~75	全部		○							○	
型	第2西山ナーシング	○	○	○		24~0	一部										
病	引佐赤十字病院	○	○		○	100	全部		○	○						○	
院	誠心会浜北さくら台病院	○	○	○		100	全部		○要時			○要時					
	北斗わかば病院	○	○	○	○	100	全部		○実技							○	
	弘遠会天竜すずかけ病院	○	○		○	100	全部	○								○	
精	A病院	○			○	24~0	全部										
	好生会三方原病院	○				24~0	胃腸患者		○							○	
対象患者が入院時は実施 1施設(対象患者がほとんど入院しない)																	
リ	常葉リハビリテーション病院	○															

対象：静岡県病院薬剤師会正会員が在籍する浜松市内の病院

38施設
回答 23施設
未回答 15施設
アルファベット病院：病院名を非公表希望 2施設
敬称(医療法人等)一部省略
実施病棟 大部分¹⁾：小児科、新生児科以外の全診療科
区分 一般病院：一般病棟を有する。急性期型を含む
療養型病院：療養型病棟を有する
精神：精神科病棟を有する リ：回復期リハビリテーション病棟を有する
併：一般病棟と療養型病棟を有する

未実施病院 6施設

区分	運用の予定
一	松愛会松田病院 計画中
療	豊岡会はまなこ病院 運用したいが未定
精	竹内会精神科神経科浜北病院 運用したいが未定
神	神経科浜松病院 予定なし
併	新風会丸山病院 予定なし
診	浜松市発達医療総合福祉センター付属診療所 予定なし(対象患者なし)
療	A病院 予定なし

アンケートの回答者へ提供した表。一般病院の多くで運用されている。薬剤の調剤法は、多くの病院で粉砕法とあわせて行っており、散剤使用等はばらつきがあった。退・転院指導への薬剤師の関与は、少なかった。

表8 結果一覧表 対象：病院看護師

浜松市内の病院における簡易懸濁法実施状況 アンケート対象者：病院看護師

実施病院 15施設

区分	薬剤の調剤法					導入率 (%)	実施病棟	退院指導				転院指導				
	錠剤	破砕	粉砕	脱カプ	散剤			看護師	薬剤師	説明書	なし	情報提供	説明書	なし		
一	聖隷浜松病院					74~50	全部									
般	県西部浜松医療センター	○	○	○	○	100	全部	○実技	○実技							
病	浜松医科大学医学部付属病院	○		○		49~25	消化器外科									○
院	浜松労災病院	○				24~0	脳外科	○実技							○	○
	浜松赤十字病院	○		○	○	100	全部	在宅(退院)患者は粉砕に切替							○	
療	弘遠会すずかけ病院	○	○	○		100	全部	○実技	○実技							○
養	一穂会西山病院	○	○		○	99~75	全部	○		○						○
型	第2西山ナーシング	○				24~0	療養型									
病	引佐赤十字病院	○		○		49~25	全部	○実技	○							
院	国立病院機構天竜病院	○	○	○	○	100	全部		○実技							○
	誠心会浜北さくら台病院	○	○		○	99~75	全部	対象患者が極めて少ない				○			○	
	北斗わかば病院	○	○			100	全部		○	○						○
精	好生会三方原病院	○				100	胃腸患者	○		○						○

対象：静岡県病院薬剤師会正会員が在籍する浜松市内の病院

38施設
回答 24施設
未回答 14施設
アルファベット病院：病院名を非公表希望 1施設
敬称(医療法人等)一部省略
区分 一般病院：一般病棟を有する。急性期型を含む
療養型病院：療養型病棟を有する
精神：精神科病棟を有する
リ：回復期リハビリテーション病棟を有する
併：一般病棟と療養型病棟を有する

未実施病院 9施設

区分	認知度	興味	運用の予定
療	豊岡会はまなこ病院	有	運用したいが未定
併	新風会丸山病院	有	予定なし
療	A病院	有	予定なし
精	竹内会精神科神経科浜北病院	無	有
一	JA静岡厚生連遠州病院	無	有
リ	常葉リハビリテーション病院	無	有
一	松愛会松田病院	無	有
精	神経科浜松病院	無	無
診	浜松市発達医療総合福祉センター付属診療所	無	無

アンケートの回答者へ提供した表。同一施設での運用及び薬剤の調剤法の回答に薬剤師と違いがあり、簡易懸濁法への認識に職種間の違いがみられた。看護師による退院指導は半数の病院で行われているが、転院指導は少なく実施可否かの情報伝達にとどまっていた。

表9 結果一覧表 対象：介護施設職員

介護老人施設および介護療養型医療施設における簡易懸濁法実施状況								
アンケート対象者：介護施設職員(主に看護師)								
実施施設 9施設								
	薬剤の調剤法					導入率 (%)	実施状況 (稼働)	対象範囲
	錠剤	破砕	粉碎	脱カプ	散剤			
庄栄会 館山寺の里	○		○			100	全部	処方内容による
白梅ケアホーム	○	○		○		100	全部	拡大
三方原 ベテルホーム	○	○				100	全部	
エーデルワイス	○	○				100	全部	その他
さぎの宮寮	○				○	99~75	全部	拡大
和合愛光園	○		○	○		74~50	全部	
特別養護老人施設第二長上苑	○	○	○			24~0	一部	引き継ぎ
A施設	○		○		○	100	全部	
B施設						100	全部	拡大

未実施施設 14施設			
	認知度	興味	運用の予定
特別養護老人ホームおおしま	有		運用したいが未定
まほら舞阪	有		運用したいが未定
介護老人保健施設 ケアセンター芳川	有		運用したいが未定
千寿会 みさくぼの里ケアセンター	有		予定なし
西山ウエルケア	有		予定なし
静光園	無	有	運用したいが未定
翠松園(すいしょうえん)	無	有	運用したいが未定
第二砂丘寮	無	有	予定なし
西島寮	無	有	予定なし
介護老人保健施設 花平ケアセンター	無	無	予定なし
D施設	無	有	運用したいが未定
E施設	無	有	運用したいが未定
C施設	無	有	予定なし
F施設	無	無	予定なし

対象：浜松市が管轄する介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設
 57施設
 回答 23施設
 未回答 34施設
 アルファベット施設：施設名を非公表希望 6施設

アンケートの回答者へ提供した表、病院に比べ回収率、認知度、運用率ともに低い、運用している施設では、対象患者への実施率は高い。認知度が低いため、運用率も低いと考えられるため、簡易懸濁法の周知が必要と感じられた。

病院と介護施設での情報共有が有用と思われるアンケート項目を抜粋した一覧表を職種ごとに作成し、回答者に提供した(表7, 8, 9)。

IV. 考 察

今回の調査で、一般病院のほとんどはアンケートに回答していただいております、多くが簡易懸濁法を運用していた。一般病院以外の療養型病院等では、アンケートに回答いただいた病院の多くは簡易懸濁法を運用していた。導入率は療養型病院のほうが高く、必要度が高いことがわかった。介護施設も含め、対象患者が入院あるいは入所しているが、運用されていない療養型病院等への簡易懸濁法の周知から取り掛かる必要があると思われる。

日本療養病床協会は、「簡易懸濁法に関する看護職及び薬剤師の意識調査報告」¹⁾を報告している。日本療養病床協会の会員633病院に勤務する看護職および薬剤師を調査対象とし、平成17年5月に実施した。回収状況は看護師36.3%、薬剤師34.4%で、認知度は看護師67.3%、薬剤師89.6%、

実施している施設は45.8%であった。同報告書では、「全国研究会等の開催等の成果として、会員施設の『簡易懸濁法』に関する認知度、実施率は高くなっていることが伺える結果であったが、いくつかの項目で職能による視点の相違により、評価や認知が異なる傾向が見られ、様々な情報の整備と充実、チームでの情報共有が今後の課題と考えられる結果であった」とまとめている。

今回のアンケート結果でも、上記の報告内容と同様の傾向がみられた。薬剤師と看護師で簡易懸濁法の認知が違うために、JA静岡厚生連遠州病院での運用に対する回答の差が生じたと考えられる。

簡易懸濁法普及のためには、病院には、簡易懸濁法のメリットや必要性を周知し簡易懸濁法実施への理解を得ること、薬剤部へは、既に運用中の病院の意見を参考に業務立ち上げについて情報提供すること、介護施設には、簡易懸濁法全体の情報を提供することが必要と思われた。当院も、指導に時間を割けないため、自宅退院の患者や簡易懸濁法を運用していない病院や施設への転院に対

する指導が不十分であったが、早急に対応したい。また介護施設入所患者への調剤を行う保険薬局へも情報提供する必要を感じた。そのためには、実技を含めた講習会や勉強会の実施、手順書等ツールの作成と活用が効果的と考えられる。

既に運用している病院薬剤師の現今の問題解決として、新薬やジェネリック薬の調剤に関する情報の共有が必要と思われる。製薬会社や簡易懸濁法について情報発信している簡易懸濁法研究会から収集した情報の共有、薬剤の調剤法選択を検証するための講習会の実施も検討したい。

今回作成した一覧表(表7, 8, 9)へ新たに掲載する病院、介護施設数を充実させ、更に保険薬局も加え、より有益な情報を提供していきたい。

V. 結 語

平成22年4月の診療報酬改定時に創設された栄養サポート加算において、チームに従事する看護師、薬剤師、管理栄養士における栄養管理に係る所定の研修の1項目として「簡易懸濁法の実施と有用性の理解」があげられている。このように、簡易懸濁法は重要性を増しており、普及は必須の

こととなってきている。

また、今日の医療は、病院、介護施設、保険薬局が連携して地域全体で医療を支えあっているだけではなくてはならない時を迎えている。容易ではないが、簡易懸濁法をひとつの手段として、地域の連携を図るためにネットワーク作りから取り組むべく検討中である。

引用文献

- 1) 賀勢泰子. 簡易懸濁法に関する看護職及び薬剤師の意識調査報告. 日本慢性期医療協会. [internet]. [accessed 2010-04-02]. <http://jamcf.jp/enquete17-2-1.html>

参考文献

- 1) 倉田なおみ. 簡易懸濁法Q & A. 簡易懸濁法研究会編著. 東京: じほう; 2007.
- 2) 和田祐一郎. 簡易懸濁法導入における利点と問題点およびその対策について. 山田成樹. Pharmacy Today 2010; 23 (1): 6-10.